

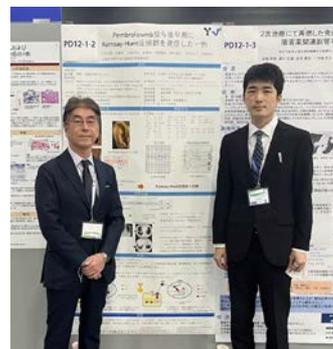
呼吸器内科は、気管支・肺を通して、感染症、腫瘍、アレルギー・自己免疫疾患、ARDSなどの急性疾患からCOPDなどの慢性期疾患まで多岐に渡る領域の疾患を診療しています。昨今流行しているCOVID-19などの感染症への対応も含め初期研修、プライマリーケアにおいては非常に重要な範囲を占めます。また、肺癌においては、薬物治療の進歩は目覚ましく、遺伝子異常を踏まえた「プレジジョン・メディシン」が最も実践されている癌腫の1つです。肺癌治療の3本柱である薬物治療、外科治療、放射線治療の集学的治療が行える施設は山梨県内では限られており、肺癌患者さんに対する最適な治療を学ぶことができます。山梨県内には呼吸器の専門医が少ないため、癌以外の間質性肺炎、難治性喘息、治療抵抗性の感染症や稀少な呼吸器疾患など、一般病院では診断や治療が困難な患者さんも多数紹介されてきます。研修を通して基本的な診療技能と、さらに一歩進んだ最新の専門知識を習得し、呼吸器疾患や呼吸器症状へのプライマリーな対応と最新かつ適切な治療ができることを目指します。

プログラムの概要

将来の専門性に関わらず、臨床医としての基本的な診療能力を身に付けるという卒後臨床研修の目的に沿って、当科の研修では基本的に頻度の高い呼吸器疾患の診療に携わっていただきます。主な研修の場となる病棟では、肺癌、感染性肺炎、間質性肺炎の患者さんが多数を占めております。背景にあるCOPDや、脳梗塞、自己免疫疾患などの他臓器疾患を始め、様々な疾患を背景に発症し、全身の診療、管理を必要とします。また、合併症として感染症や気胸、胸水貯留など様々な呼吸器病態を併発し、多彩な疾患や病態を同時に経験することができます。

アピールポイント

1. 頻度の高い呼吸器疾患や呼吸器系の症状への対処法を身につけることができます。
呼吸器疾患は頻度が高いため、将来どの診療科を専門としても、プライマリーケアや当直業務の中で、呼吸器疾患や呼吸器系の症状には日常的に遭遇することになります。その時にある程度の対応を自ら行い、また、適切なタイミングで専門医にコンサルトできるような能力を当科での研修で習得します。大学病院の入院患者さんは肺癌や間質性肺炎、その他希少あるいは重症の疾患の方が多くを占めていますが、このような患者さんへの対処法を知ることにより、コモンな疾患にも対処できるようになります。
2. 肺癌肺癌の治療を通して固形癌の最新の診療の考え方を学ぶことができます。
固形癌の治療において分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤などの薬物治療は留まることなく進歩しています。当科では遺伝子異常や免疫の状態に応じて治療法を選択するというプレジジョン・メディシンを通して、固形癌診療の大きな流れを肺癌を通して学ぶことができます。
3. 患者さんの診断、初期治療からターミナルケアまでの流れを学ぶことができます。
4～8週間という短い研修期間では一人の患者さんの診断から治療、ターミナルケアまでを一貫して体験することはできませんが、様々な段階の患者さんを診ることにより、呼吸器疾患の診療の全体像を体感することができます。癌や感染症といった横断的な考えだけではなく呼吸器という臓器に特異的な考え方も習得できます。予後不良の患者さんの生き様や社会的背景まで視野に入れ、患者さんを一人の人間としてみるという視点も習得できます。
4. 呼吸器感染症の治療を通じて、感染症一般に対する診療能力を高めることができます。
COVID-19の流行などもあり、基本的な感染症に対する対処、考え方は重要な研修項目です。呼吸器感染症を知ることを手掛かりに、感染症一般に対する考えを習得することができます。
5. 様々な呼吸不全の診断や対処法を学ぶことができます。
呼吸器疾患では様々な原因により呼吸不全を認めます。迅速な対応が必要な急性呼吸不全から長期的な視点が必要な慢性呼吸不全まで多岐に渡り、その診断と対処法を習得することができます。



具体的な研修内容

2つある診療チーム(それぞれ担当8～12人)のいずれかに属して、主に入院患者さんの診療にあたります。胸部X線、CT、PET-CTなどの画像検査、血液検査、呼吸機能検査、血液ガス分析の結果の解釈、ベッドサイドでの検査や処置、治療方針の決定などは指導医のもとで行います。気管支鏡検査にも参加し、検査の概要を理解できるようになります。指導医からのレクチャーも適宜、行います。

また、診療チームや呼吸器内科全体での、あるいは他科との合同カンファレンスを通して、患者さんの診断や治療方針についての基本的な考え方を習得します。

希望があれば、学会・論文発表などを行うことも可能です。